

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	朝日インテック株式会社大阪R&Dセ	階数	地上5F
建設地	大阪府和泉市あゆみ野二丁目	構造	S造
用途地域	準工業地域、指定なし	平均居住人員	300 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,640 時間/年(想定値)
建物用途	学校、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年6月 予定	評価の実施日	2020年7月29日
敷地面積	8,877 m ²	作成者	一級建築士事務所 日晃設計
建築面積	2,235 m ²	確認日	2020年7月29日
延床面積	9,010 m ²	確認者	一級建築士事務所 日晃設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (46 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 82%

③上記+②以外の 82%

④上記+ 82%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.7

Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.8

音環境	3.0
熱環境	2.4
光・視環境	3.1
空気質環境	3.1

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.0

機能性	2.7
耐用性	2.9
対応性	3.4

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.2

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性・	2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.5

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.7

建物外皮の	5.0
自然エネ	3.0
設備システ	3.6
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.5

水資源	3.4
非再生材料の	3.7
汚染物質	3.3

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.4

地球温暖化	3.7
地域環境	3.3
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
<ul style="list-style-type: none"> ・外皮性能を高め、高効率な設備機器の導入により環境負荷の低減を図るとともに、ライフサイクルCO₂排出量の低減に努めている。 ・リサイクル材を採用し、環境負荷の低減に配慮している。 		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<ul style="list-style-type: none"> ・空調や照明は細かく制御可能な計画とし、室内環境の向上に配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・耐用年数の長い配管材を使用し、建物の耐用性の向上に配慮している。 ・高い階高を確保し、空間のゆとりにも配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空地部分を積極的に緑化し、緑による良好な景観形成、及び生物環境の保全に配慮している。 ・屋上を積極的に緑化することにより、熱的な影響の低減を図っている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<ul style="list-style-type: none"> ・断熱性の高い材料を採用し、建物の熱負荷抑制に配慮している。 ・LED照明等の高効率な設備機器を導入している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル材の採用により、非再生性資源の使用量削減に配慮している。 ・消火剤や発泡剤は汚染物質含有材料の使用を避けた計画としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・燃焼機器の使用を避けて、大気汚染防止に配慮している。 ・周辺への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R2-0053

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	朝日インテック株式会社大阪R&Dセンター					
		建設地	大阪府和泉市あゆみ野二丁目					
		用途/区分	学校(大学等)					
【評価結果】		CASBEE 総合評価					B+	
①	CO2削減					4		
②	みどり・ヒート アイランド対策					2		
③	建物の断熱性					5		
④	エネルギー削減					4		
⑤	自然エネルギー直接利用					—		
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						報告しない		
【評価項目】								
項目		評価内容			スコア	評価		
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価			3.7	4		
② みどり・ヒートアイランド対策								
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価			1.0	2		
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価			3.0			
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価			3.0			
③ 建物外皮の熱負荷抑制		CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価			5.0	5		
④ 設備システムの高効率化		CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価			3.6	4		
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価			3.0	—		
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。			報告する 報告しない	報告しない		
その他								
		技術の名称			考慮事項			
先進的技術の導入								
特に配慮した事項								